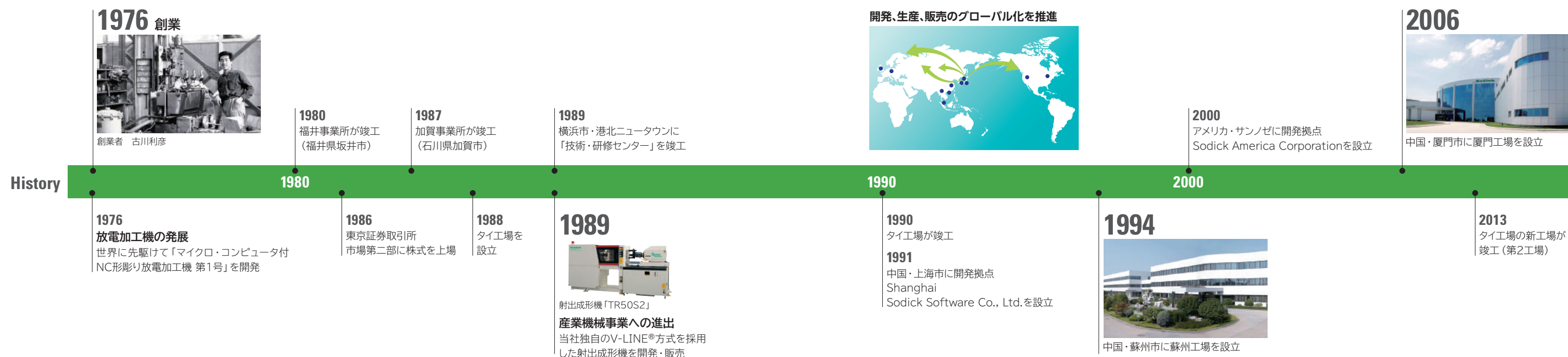


時代や顧客の要請に応えながら、今この瞬間もソディックならではの“強み”を磨き続けています。



1976年～ 創世期－躍進期

高度成長期に向かう日本のものづくり現場でより高精度な金属加工が求められるなかで。

第二次世界大戦中、旧ソ連が開発した放電加工機は昭和20年代に国産化されていましたが、当時の機械は加工時間が長く仕上がりも粗いなど、用途は金属の穴あけ加工などにとどまっていました。1960年代、高度成長期に入り、大量生産に即した金属の

高速・高精度な加工や仕上げの美しさが求められるなか、創業者である古川利彦は世界初の「電極無消耗トランジスタ電源」を開発。金型製造の世界を一変する放電加工機の実用化をめざしてソディックを創業しました。

ソディック創立、世界初NC放電加工機を開発。量産体制の確立へ。

ソディックは、「創造」「実行」「苦労・克服」を社是とする放電加工機メーカーとして1976年8月に創業しました。「お客様の要望に何が何でも応える」「世の中になくものは自分たちで創る」という創業時の信念は、そのまま企業精神として今に貫かれています。創業者の古川利彦が元々勤めていた工作機メーカー（旧ジャパックス）から独立した当初、社員は24名、ブランド力や信用力に腐心したこともありましたが、お客様の課題を何が何でも解決するという姿勢が仕事を呼び込み、順調なスタートを切ることができました。1976年12月には、世界初となる「マイクロ・コンピュータ付NC形彫り放電加工機第1号」を開発・

納入、翌年3月にはNC形彫り放電加工機用電源装置「GPC」シリーズを完成させ、事業の拡大を進めました。順調に売上を伸ばすなか、1980年には、同業大手に対抗するため、福井県に自社工場を操業。最新鋭設備の工場と技術者の切磋琢磨により、性能・価格とも競合他社を圧倒する放電加工機を続々と開発・販売していきました。売上高は年々伸び、創業10年という当時では最速で、放電加工機メーカー初の東証二部への上場を果たし、さらに1987年には自動化を図り、最先端生産システムを採用した加賀工場を完成させました。

開発、生産、販売のグローバル化を推進



1990

1990
タイ工場が竣工
1991
中国・上海市に開発拠点
Sodick Software Co., Ltd.を設立

2000

1994



中国・蘇州市に蘇州工場を設立

1990年～ 海外展開期

プラザ合意による急激な円高と海外需要の高まりに対応するために。

1980年代は海外での需要が拡大し、製品の輸出比率は約3割にのびました。ところが、1985年のプラザ合意により急激な円高に見舞われ、円相場が急上昇。輸出産業は国際的な競争力を失

い、ソディックも大きな打撃を受けました。ここに国内工場の供給力不足が重なり、海外での工場建設を検討するようになりました。

タイを皮切りに世界5エリアで開発、生産、販売のグローバル化を強力に推進

プラザ合意による急激な円高と海外需要の高まりに対応するために、ソディックの経営陣はアジア各国を視察し、利便性や国民性などを勘案してタイへの進出を決定しました。1988年には現地法人を設立し、1990年にタイに初の海外工場を完成。タイ進出には社内の反対も多く、数年の改善を要しましたが、社員一丸で努力を続けた結果、今やグループの中核をなすメイン工場として稼働しています。一方、中国進出は、ソフトウェアの開発が起点となりました。高い技術力を持つ上海交通大学、上海市との共同出資によるソフトウェア会社を設立し、自社製品に必要なソ

フトウェアの開発を推進。生産拠点づくりでは、ビジネスの手法の違いから信頼できるパートナー探しに多くの時間を要しましたが、1994年に蘇州で工場を設立しました。また、2006年には廈門に工場を設立、中国での生産を拡大。さらに、シンガポールや北京、上海、台湾、香港に販売会社を設立し、グローバルネットワークを着実に築いていきました。欧米では、創業間もなくから国際見本市への出展を足がかりに販売拠点を配備し、現在も欧州のほか北米・中米で販路を拡大中です。

2000

1998

世界で初めて
放電加工機に
リニアモータを搭載



2007



製麺機「DDM」
食品機械事業への進出

2012

(株)ソディック エフ・ティの
EWS事業部の
新工場(宮崎市)竣工

2013

(株)ソディックエフ・ティの
金型成形事業部の新工場(宮崎市)竣工

2015



東京証券取引所市場第一部上場

2016

加賀事業所に
食品機械事業の新工場が竣工

2016



金属3Dプリンタ大型機および
専用射出成形機の開発

2018

・本社(技術・研修センター内)
に第2棟(研究棟)を新設
・加賀事業所内に
マルチファクトリーを竣工

1990年～ 製品拡充期

新興国との価格競争を超える一層の高付加価値化に貢献するために。

1990年代のバブル崩壊後、日本の製造業は中国や韓国など新興国メーカーの台頭と同時に国際的な価格競争にさらされていました。そうしたなか、価格だけでなく付加価値を追求する製造業のお客様からは、「ソディックの放電加工機で精密金型をつくっても、従来の射出成形機では生産が安定しない」といった声が

聞こえてきました。こうして生まれたのが、ソディックの高精度射出成形機です。以来、ソディックは、お客様のものづくりに寄り添いながら、ものづくりの一層の高付加価値化を支える多彩な製品群を提案しています。

未来のものづくりを支える
射出成形機や金属3Dプリンタなどを次々と開発

1990年代、ソディックは海外展開に加え、製品面でも新たな挑戦を続けてきました。放電加工機は、電子、磁気学、化学、精密測定技術、ソフトウェア開発など幅広い技術から成り立っています。これらの技術をもとにソディックならではの新事業を次々に展開。セラミックス・リニアモータの自社開発や射出成形機分野への進出も、「ものづくりに関することであれば、ソディックに相談すれば全て解決する」という当社の事業コンセプトを体現した製品といえます。また、放電加工機メーカーとして唯一、消耗品の開発・販売を行うのも当社の強みです。さらに、2000年以降も

リニアモータやセラミックス、数値制御などの内製技術を応用したナノマシン、3D CAD-CAM機能搭載NC装置、電子ビーム装置、ナノ放電加工機など、世の中になかった製品を続々と開発・発表してきました。近年では、食品機械業界やLED分野、金属3Dプリンタ分野にも参入し、2015年には東証一部への上場を実現。2018年には加賀事業所内にマルチファクトリーを竣工し、生産拠点を整備しました。機械メーカーとしてのものづくり体制とともにコーポレート・ガバナンス体制を強化するなど、上場企業にふさわしい経営基盤の確立をめざしています。

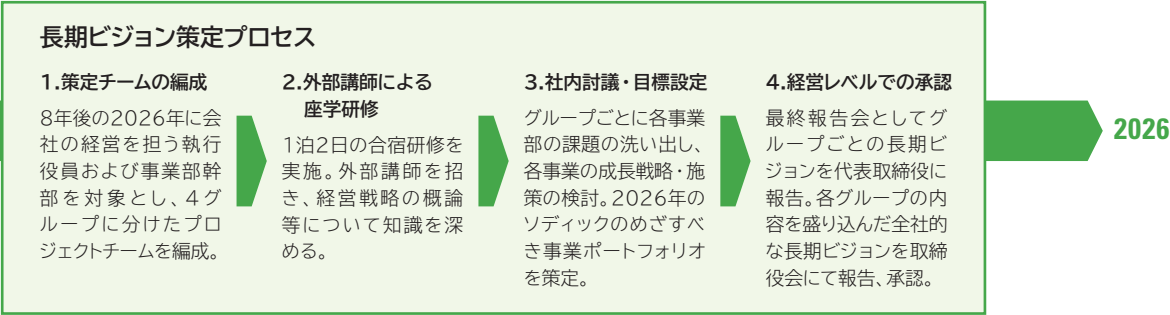
2019

ソディック長期経営計画
「Next Stage 2026
～Toward Further Growth～」策定

p19へ

2026

ソディック長期経営計画
「Next Stage 2026
～Toward Further Growth～」の実現へ



～2026年 サステナビリティ戦略推進期

“持続可能性（サステナビリティ）”が企業活動や国際社会の大きなテーマになるなかで。

企業活動のグローバル化に伴って、今やあらゆるものづくりが国境を越えたサプライチェーンに支えられています。一方で、国家間の安全保障上の問題に起因する貿易摩擦など、地政学的リスクも増大しています。また、資源・エネルギー利用による地球環境問題や世界的な人口増と食糧問題なども相まって、“持続可能性

（サステナビリティ）”が企業活動や国際社会の大きなテーマに。2015年に国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）や、ESG（環境・社会・ガバナンス）に関する取り組みが企業の評価軸として定着しつつあるのはその証左といえます。

創業50周年、2026年に向けた
「ソディック長期経営計画」を策定

ソディックは2026年の創業50周年の節目を視野にソディック長期経営計画「Next Stage 2026 ～Toward Further Growth～」を2019年に策定しました。これは、事業を取り巻く国際社会の変化の潮流を中長期的に捉えた“持続可能な成長”をめざす計画で、従来、比較的短期のスパンで将来性を評価されてきた工作機械メーカーの資本市場や人材市場における経営課題を克服するチャレンジの一つです。策定にあたっては、5年後、10年後に経営

を担う幹部社員を交えたタスクフォースを立ち上げ、次世代自動車の登場、5Gを含むIoT／AI技術の進化、環境規制の強化、労働人口の減少と人件費の高騰など、市場の変化に対応するための事業戦略等について議論。2026年度に売上高1,250億円、営業利益170億円を定量目標に、ポートフォリオ改革やガバナンスの強化、資本政策や働き方改革、組織改革に向けた指針を定めました。